

令和5年度 シラバス

独立行政法人国立病院機構
鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校

看護の統合と実践

1. 看護の統合と実践の位置づけと考え方

本校では、全ての看護学に共通する医療安全管理や看護管理、医療者としてのコミュニケーションや倫理的判断を学習する内容と、技術統合演習、事例研究の実際を科目内容として「看護の統合と実践」を設定した。これらは3年間を通して学習していく内容である。すなわち、臨地実習と学科の繰り返しによる学習の積み重ねの段階によって難易度を変化させ、卒業時までには基本的な実践力を身につけられるようにしていく。そこで、看護の統合と実践の科目は、「看護の統合と実践Ⅰ（医療安全管理・技術統合演習）」「看護の統合と実践Ⅱ（看護管理・統合技術演習）」「看護の統合と実践Ⅲ（国際看護／災害看護・演習）」「看護の統合と実践Ⅳ（医療者コミュニケーション・技術統合演習）」で構成した。さらに、2年次で学習する「看護の統合と実践Ⅰ」と3年次で学習する「看護の統合と実践Ⅳ」のどちらにも医療安全管理と技術統合演習を教育内容に組み入れ、難易度を変化させ、看護実践力の向上をめざす。看護研究についても1年次から段階的に学習していく。1年次は専門分野Ⅰの看護学概論の単元に「看護研究」を設置し、自らの看護実践に対して既存の看護研究論文からの知見を活用していくことを学ぶ。2年次には「看護研究の基礎」で看護研究の基礎知識を学ぶ。そして、「看護の統合と実践Ⅳ」の「事例研究」では、3年次の実習事例での看護実践をもとに事例研究を行うこととしている。

看護の統合と実践Ⅰ（医療安全管理・技術統合演習）

本科目では、医療安全・リスクマネジメントの実際について学ぶ。ME機器や治療処置に存在するリスクを学ぶ演習や多重課題への対応などを演習や校内実習を通して学ぶ。感染管理および感染看護は全ての看護学に関連する内容であり、事例を通して看護の対象をイメージできるようになる2年次で学ぶ内容とする。臨床で遭遇しやすい事故として、患者誤認、転倒・転落、誤薬の事例を設定し、リスクを認知し回避できるようにする演習を行う。技術統合演習では、疾病や症状のある事例を設定し、基本看護技術、日常生活援助技術の中から複数の技術を組み合わせる演習を実施し、患者の状態・状況に応じた安全への判断と対応について学ぶ。

看護の統合と実践Ⅱ（看護管理・演習）

本科目では、看護管理に関する内容を中心に看護教育や医療経済に関して、チーム医療、医療安全、多職種との協働と連携について学ぶ。

看護の統合と実践Ⅲ（国際看護／災害看護・演習）

本科目では、国際看護と災害看護について学ぶ。国際看護では、日本がどのような国際協力を行っているのか、現在の国際的課題には何があるかについても学ぶ。災害看護では、国内外における災害看護活動について学び、災害時のトリアージについての演習を実施する。災害サイクル（発生直後～復興～予防、準備）ごとに優先される人々のニーズと必要な看護を理解する教育内容とする。

看護の統合と実践Ⅳ（医療者コミュニケーション・技術統合演習）

本科目は、医療者コミュニケーション、医療安全演習、技術統合演習、看護実践と倫理、事例研究で構成している。医療者コミュニケーションでは、チーム医療に必要な職種について理解するとともに医療現場でのアサーション、医療者コミュニケーションのあり方について学習する。看護実践と倫理の演習では、臨床で遭遇する看護実践場面の事例をもとに倫理的課題を設定し、倫理的判断をする過程を学習する。看護研究では、3年次の実習を通して研究計画立案から研究論文作成までの一連のプロセスを学び、実践した看護について深く洞察することをねらう。技術統合演習・医療安全演習では、複数受け持ちの事例を設定し、基本看護技術、日常生活援助技術、診療の補助技術の中から複数の技術を患者の状態に応じて提供する。さらに、このときのマネジメントとその根拠を学び、グループでの看護実践を振り返ることで複数受け持ち時の自己課題を明確にする教育内容とする。

2. 科目の目的・目標

目的：臨床での看護実践を想定し対象者の状況に応じて優先度や看護方法をマネジメントし、実施していく能力を養う。

目標：1) 医療安全の基本的知識を習得する。

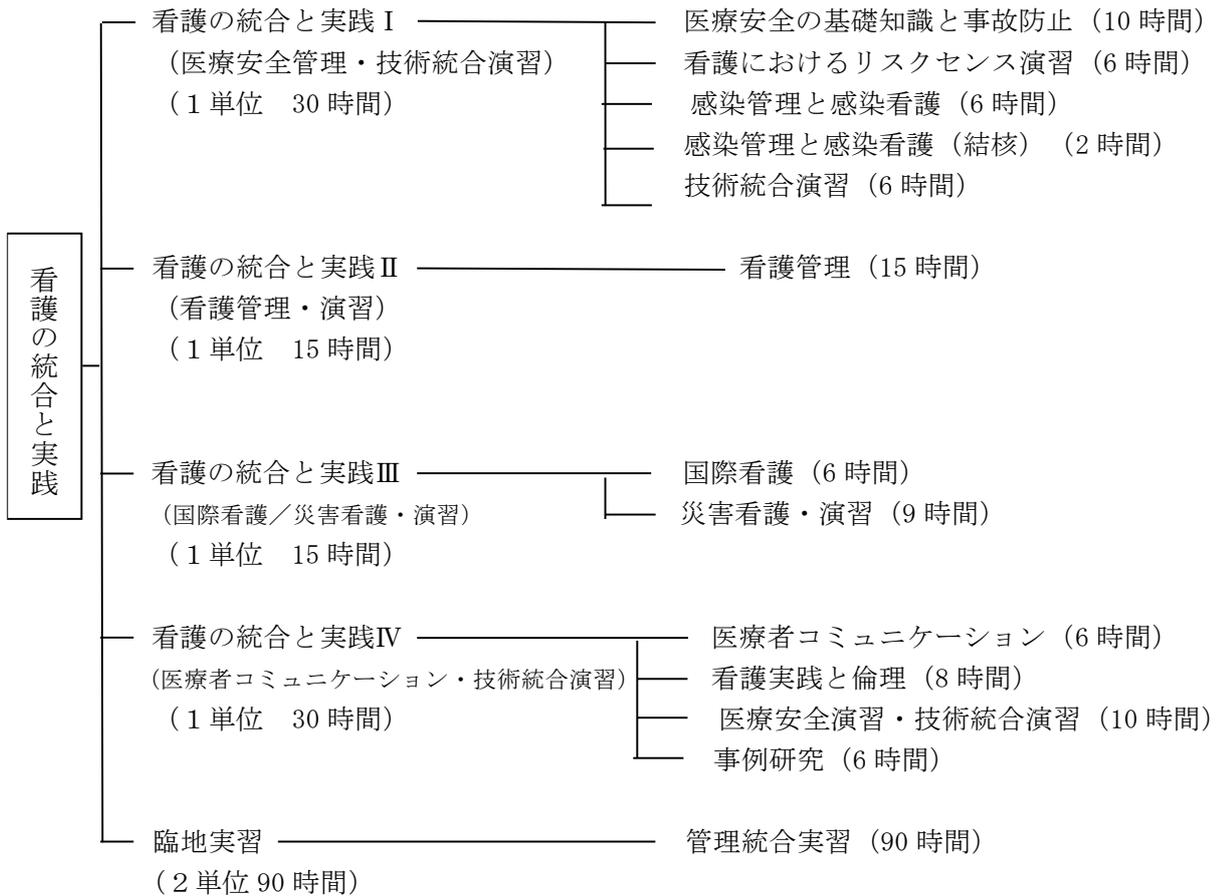
2) リスク感性を高め、自らの看護実践において安全と倫理への配慮ができる。

3) 医療者としてのコミュニケーションスキルを身につける。

4) 医療チームの中で看護職として多職種と協働・連携する方法を学ぶ。

5) 自らの看護実践をふり返り、看護の熟達へ向けて探求していく学習を身につける。

3. 看護の統合と実践の科目構成



| | | | | | |
|--|--|---------|---------------------------------------|------------------------------------|------|
| 領域 | 統合分野 | | 単元名 | 看護管理 | |
| 科目 | 看護の統合と実践Ⅱ(看護管理・演習) | | | | |
| 対象学年・開講時期 | 3年・1学期 | 単位(時間数) | 1 単位 (15時間) | | |
| 講師名 | ①岸田 佐智子 ②井口 麻里 ③松本 尚子 ④池田 智子 | 所 属 | ①鹿児島医療センター ② 同 上 ③ 同 上 ④ 同 上 | 看護部長 副看護部長 副看護部長 医療安全管理係長 | |
| <p>[講義概要]</p> <p>看護管理を中心として医療チームの中で看護職として他職種と連携・協働する方法を学ぶ。自らの看護実践を振り返り、看護の熟達へ向けて探求していく学習を身につける。</p> <p>1. 単元目標</p> <p>1) 看護管理の原則と基礎を理解する。 2) 病院における看護管理を理解する。 3) 看護基礎教育について理解し、これからの看護教育の方向性が展望できる。</p> <p>2. 講義内容</p> | | | | | |
| 回 | 講 義 内 容 | | | 講義形態 | 担当講師 |
| 1～2 | <看護とマネジメント> 1. マネジメントとは 2. 看護におけるマネジメント 1) 看護ケアのマネジメント 2) 看護サービスのマネジメント 3) 看護におけるマネジメントの変遷 <看護サービスのマネジメント> 1. 看護サービスのマネジメント 1) 看護サービスのマネジメント 2) 組織目的達成のマネジメント 3) 看護サービス提供の仕組みづくり 4) サービスの評価：病院機能評価 5) 診療報酬制度、医療計画 | | | | ① |
| 3 | 6) 人材のマネジメント：看護職者の教育、キャリア開発 7) 施設・設備環境のマネジメント 8) 物品のマネジメント 9) 情報のマネジメント 10) 重症度、医療・看護必要度 | | | 講義 | ② |
| 4～5 | <看護ケアのマネジメント> 1. 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 1) 看護ケアのマネジメントのプロセス <病院における看護管理> 1. 看護業務の実践 1) 看護業務とは 2) 看護基準と看護手順 クリティカルパス 3) 看護サービスのマネジメント (1) 看護単位 区分 (2) 看護ケア提供システム プライマリーナーシング、患者受け持ち方式、機能別看護方式、 モジュール型継続受け持ち方式、固定チームナーシング 4) 労働環境 (1) 労働時間 (2) 勤務体制 (3) 看護師の職業上の健康管理 2. チーム医療 | | | 講義 | ③ |

| | | | | | |
|-----------|--|---------|---------------------------------------|------------------------------------|---|
| 領域 | 統合分野 | | 単元名 | 看護管理 | |
| 科目 | 看護の統合と実践Ⅱ（看護管理・演習） | | | | |
| 対象学年・開講時期 | 3年・1学期 | 単位（時間数） | 1 | 単位（15時間） | |
| 講師名 | ①岸田佐智子 ②井口 麻里 ③松本 尚子 ④池田 智子 | 所 属 | ①鹿児島医療センター ② 同 上 ③ 同 上 ④ 同 上 | 看護部長 副看護部長 副看護部長 医療安全管理係長 | |
| | 1)チーム医療とは 2)チーム医療に必要な機能 3)看護職の責任と役割 4)多職種との連携・協働 5)看護業務の実践 | | | | |
| 6～7 | <看護管理におけるリスクマネジメント> 1.組織としての安全管理 1)安全管理のシステム 2)医療事故対策 3)院内感染対策 4)災害対策 2.医療安全と医療の質保証 1)医療事故の増加 2)医療事故の要因と医療の質の向上 3)ヒューマンエラーと医療事故 4)看護業務の特性と医療事故 5)医療事故防止対策としてのインシデントレポートの活用 6)医療安全における医療者と患者の協働の必要性 7)安全管理体制整備と医療安全文化の醸成 | | | 講義 | ④ |
| 8 | 筆記試験（1時間） | | | | |
| 講義の進め方 | 看護管理では病院における看護管理の実際を学習する。実習を通して看護活動の実際を学んだ3年次の学習とし、マネジメントとは何か、実際場面をもとに教授する。 | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学(1) 看護学概論（医学書院）第17版 系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践(1) 看護管理（医学書院）第10版 系統看護学講座専門 医療安全（医学書院）：講師④のみ | | | | |
| 参考文献 | 看護六法令和3年版（新日本法規） | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験にて評価する。 | | | | |
| 講師情報 | ①所属施設において、看護部長として看護管理の実務経験がある ②所属施設において、副看護部長として看護管理の実務経験がある。 ③同上 ④所属施設において医療安全管理係長として看護管理の実務経験がある。 | | | | |

| | | | | |
|---|--|---------|----------------------------|----------------|
| 領域 | 統合分野 | | 単元名 | 国際看護 |
| 科目 | 看護の統合と実践Ⅲ (国際看護/災害看護・演習) | | | |
| 対象学年・開講時期 | 3年・1学期 | 単位(時間数) | 1 | 単位(15時間のうち6時間) |
| 講師名 | 八代 利香 | 所属 | 鹿児島大学医学部保健学科 基幹看護学講座 教授 | |
| [講義概要] | | | | |
| 世界の保健医療の状況を概観し、看護学を地球レベルの広い視点から捉え、世界の人々の健康課題への戦略および異文化理解のあり方について学ぶ。 | | | | |
| 1. 単元目標 | | | | |
| 1) 国際化(世界化)時代における看護専門職の役割と責任、異文化理解について説明できる。 | | | | |
| 2) 保健・看護の国際協力とネットワークおよびその背景について説明できる。 | | | | |
| 3) 世界の健康リスクと格差、課題と戦略の概要について説明できる。 | | | | |
| 2. 講義内容 | | | | |
| 回 | 講義内容 | | | 講義形態 |
| 1 | 看護・保健のグローバリゼーションと看護職の役割と責任 1. 保健に関する国際ネットワーク作りの歴史と国際看護 1) 保健ネットワークの初期の動向 2) 国際連合の設立 3) 世界保健機関の設立 4) プライマリーヘルスケアのアルマアタ宣言 5) 国際保健の定義と範囲 6) 国際看護の定義と経緯 2. 異文化理解 1) 文化の定義 2) 文化の多様性と看護 3) 文化モデル 4) 文化的コンピテンシー 5) 文化への適応 | | | 講義 |
| 2 | 1. 保健の国際ネットワーク 1) WHOの原則と目的 2) WHOの自治(世界保健総会、執行理事会、事務局) 3) WHOの地域的機関、予算 4) WHO看護・助産開発協力センターの活動 2. 日本の国際協力の概要 1) 開発協力と政府開発援助(二国間援助、多国間援助) 2) 政府開発援助大綱(ODA大綱) 3) 日本のODAの実績 4) ODAと国際協力機構(JICA) 5) 技術協力の種類と取組 6) 国際協力活動の実際 | | | 講義 |
| 3 | 1. 世界の健康－課題と戦略 1) 過去50年間の世界の健康 2) 健康リスク(貧困、環境要因、高齢化) 3) 世界の死因とDALYs(感染症、非感染性疾患、傷害) 4) 戦略(MDGs、SDGs、UHC) | | | 講義 |
| 講義の進め方 | 講義形式 | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学Ⅰ(医学書院) | | | |
| 参考文献 | 適時紹介する。 | | | |
| 評価方法 | 試験、講義に対する意欲・態度にて評価する。 | | | |
| 講師情報 | 国際協力機構(JICA)から看護専門職として、海外に専門家派遣された経験や、海外の医療機関や教育機関での研修経験、米国の大学への留学経験がある。専門分野は基礎看護学、国際看護学、看護倫理、看護教育学である。 | | | |

| | | | | |
|--|---|-----|----------------------------------|-------------------|
| 領域 | 統合分野 | | 単元名 | 災害看護・演習 |
| 科目 | 看護の統合と実践Ⅲ (国際看護/災害看護・演習) | | | |
| 対象学年・開講時期 | 3年・2学期 | | 単位(時間数) | 1 単位 (15時間のうち9時間) |
| 講師名 | ①野呂 俊幸 ②木之下 誠 | 所 属 | ①鹿児島医療センター 看護師 ②鹿児島医療センター 看護師 | |
| [講義概要] | | | | |
| 国内外における災害看護活動について学び、災害時のトリアージの実際を理解する。 | | | | |
| 1. 単元目標 | | | | |
| 1) 災害および災害看護に関する関心を高める。 | | | | |
| 2) 災害および災害看護に関する基礎的知識ならびに必要な技術を理解する | | | | |
| 2. 講義内容 | | | | |
| 回 | 講 義 内 容 | | 講義形態 | 担当講師 |
| 1 | 1. 災害時における看護の役割と活動内容 1) 災害医療の基礎知識 (1) 災害の種類と健康障害 (2) C S C A T T T 2) 災害看護と法制度 | | 講義 | ① |
| 2 | 1. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 1) 急性期・亜急性期の活動 (1) 被災病院における活動、(2) 避難所における活動 (3) トリアージについて 2) 慢性期・復興期の活動 3) 静穏期(災害への備え) 2. 災害時におけるこころのケア 1) 災害時要援護者の理解 2) 災害時のこころのケア 3. ユビキタス社会における災害看護拠点の形成 4. 主題: 災害看護と国際協力 1) 災害看護分野の国際協力 2) 災害時に活動する国際関連機関 3) 災害時に活動するNGO | | 講義 | ② |
| 3~4 | 1. 主題: 災害看護演習 1) 救護シミュレーション: 急性期の避難所におけるトリアージおよび応急手当等について、救護者役と患者役に分かれてロールプレイを行う。ロールプレイ 20分×2、事前ミーティング 10分 2) 演習後のふりかえり 30分 | | 演習 *前半クラス・後半クラスに分かれて実施 | ①② |
| 5 | 終了試験(1時間) | | | |
| 講義の進め方 | 講義と演習(一部課題) 第3~4回目の演習は前半・後半クラスで実施する。 演習場所や必要物品等については開講時に説明をする。 | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践(3) 災害看護学・国際看護学(医学書院)第4版 | | | |
| 参考文献 | 「石巻赤十字病院~東日本大震災初動の記録」(日本赤十字社)、 「被災病院における発災直後の看護活動」(日経映像) 国民衛生の動向 2022/2023(厚生労働統計協会) | | | |
| 評価方法 | 筆記試験および講義・演習に対する意欲・態度も評価対象にする。 | | | |
| 講師情報 | ①所属施設においてDMATに所属し、災害看護に関する研修の参加や被災地での実務経験がある。 ②同上 | | | |

| | | | | |
|--|---|-----|---------|------------------|
| 領域 | 統合分野 | | 単元名 | 医療者コミュニケーション |
| 科目 | 看護の統合と実践IV (医療者コミュニケーション・技術統合演習) | | | |
| 対象学年・開講時期 | 3年・ | 1学期 | 単位(時間数) | 1単位 (30時間のうち6時間) |
| 講師名 | 濱崎 友実 | 所属 | 専任教員 | |
| <p>[講義概要]</p> <p>看護師が勤務することの多い医療施設には多くのヘルスケア専門職が勤務し、多職種がチームとなってそれぞれが持つ力を連携することで大きな力となり患者を支えている。このチームの連携がスムーズになされるようチーム医療に必要な職種について理解するとともに、医療職種間における円滑なコミュニケーションの取り方などについて演習を通して学ぶ。</p> <p>1. 単元目標</p> <p>1) チーム医療に必要な職種について理解する。 2) 医療者コミュニケーションの基本を理解する。 3) 医療現場でのアサーションの重要性を体感する。</p> | | | | |
| 2. 講義内容 | | | | |
| 回 | 講義内容 | | | 講義形態 |
| 1 | <p>1.医療者間のコミュニケーション</p> <p>1)チーム医療とは 2)チーム医療における連携・協働、コミュニケーション</p> <p>2. チーム医療における看護師の役割</p> <p>1)アドボケートとしての役割 2)リーダーシップ・メンバーシップ</p> <p>3. 医療における多職種間のコミュニケーション方法</p> <p>1)アサーティブコミュニケーション</p> <p>4.チーム医療に必要な職種への理解 (GW)</p> <p>1) 多職種の担う役割と養成制度の違い (1)医師・歯科医師 (2)薬剤師 (3)検査・放射線関係職種 (4)リハビリテーション関係職種 (5)栄養・口腔ケア関連職種</p> <p>*事後課題：チーム医療に必要な職種への理解</p> | | | 講義 GW |
| 2 | <p>2. チーム医療とコミュニケーションの実際 (ロールプレイ)</p> <p>1)多職種に対する患者の意向の伝え方 2)看護師としての多職種の専門性を理解した上でのアサーティブコミュニケーション</p> <p>*事前課題：ロールプレイのテーマについての学習</p> | | | ロール プレイ |
| 3 | <p>1. ロールプレイを踏まえた上でのチーム医療に必要な職種への理解</p> <p>2. チーム医療における看護師の役割</p> <p>3. 医療における多職種間のコミュニケーション方法</p> <p>4. 自己の傾向と課題</p> | | | 発表 討議 |
| 講義の進め方 | <p>これまで学習した人間関係、コミュニケーションなど様々な人との関わり方に関係する知識・技術を復習して講義・演習に臨む。患者だけでなく、医療職者間にとってコミュニケーションは大変重要である。そこで、コミュニケーションの意味や実際のコミュニケーションの取り方について考える。</p> | | | |
| テキスト | <p>系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践(1) 看護管理 (医学書院) 第10版</p> | | | |
| 参考文献 | <p>系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学(1) 看護学概論 (医学書院) 第17版 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I (医学書院) 第18版 事例患者の看護を実践するために必要なテキスト、電子辞書等このほか適宜紹介する。</p> | | | |
| 評価方法 | <p>課題レポート、講義・演習に対する意欲・態度にて評価する。</p> | | | |
| 講師情報 | <p>専任教員 10年目である。看護師として8年の実務経験がある。</p> | | | |

| | | | | |
|---|--|--|-------------|------------------|
| 領域 | 統合分野 | | 単 元 名 | 看護実践と倫理 |
| 科目 | 看護の統合と実践IV (医療者コミュニケーション・技術統合演習) | | | |
| 対象学年・開講時期 | 3年 | 1学期 | 単位(時間数) | 1単位 (30時間のうち8時間) |
| 講師名 | 澁谷 幸子 | 所属 | 専任教員 | |
| <p>[講義概要]</p> <p>看護師としての責任と倫理について学び、看護場面における倫理的課題への対応を理解する。</p> <p>1. 単元目標</p> <p>看護実践活動に必要な看護倫理の基本的な考え方について理解できる。</p> <p>2. 講義内容</p> | | | | |
| | 回数 | 講義内容 | | 講義形態 |
| | 1 | <p>1. 看護倫理についての基礎知識</p> <p>1) 看護倫理とは</p> <p>2) 看護倫理の歴史的推移</p> <p>3) 原則の倫理のアプローチ</p> <p>4) 看護倫理に関する重要な言葉</p> <p>2. ケアの倫理</p> <p>1) ケア、ケアリングとは</p> <p>2) 看護実践におけるケアの倫理の特徴と限界</p> <p>3. 看護職の責任</p> <p>1) レスポンシビリティとアカウンタビリティ</p> <p>2) 倫理的責任と法的責任</p> | | 講義 |
| | 2～3 | <p>4. 看護場面における倫理的課題の実際</p> <p>1) 倫理的問題へのアプローチ</p> <p>(1) 看護実践における倫理的問題へのアプローチ</p> <p>(2) 意思決定のアプローチ</p> <p>2) 倫理的課題の実際(事例検討)</p> <p>(1) 患者・家族間で意見の齟齬が見られる場面での倫理的課題 Jonsenらの症例検討シートを用いて</p> | | 講義 演習 |
| | 4 | <p>5. 看護場面における倫理的課題の実際</p> <p>2) 倫理的課題の実際(事例検討)</p> <p>(2) 日常的な看護場面における倫理的課題</p> <p>*事前課題：各自臨地実習場面での倫理的課題を持ち寄り、検討する</p> | | 演習 |
| 講義の進め方 | <p>講義と演習(一部課題)</p> <p>看護実践と倫理では、倫理的問題を抱える事例について事例検討演習を行い、看護倫理の基本的な考え方を学び自己の課題を明確にする。</p> | | | |
| テキスト | 看護学テキスト NiCE 看護倫理 よい看護・よい看護師の道しるべ(南江堂)第3版 | | | |
| 参考文献 | 系統看護学講座別巻 看護倫理(医学書院)第2版 適宜紹介する。 | | | |
| 評価方法 | 課題レポート、講義・演習に対する意欲・態度にて評価する。 | | | |
| 講師情報 | 専任教員5年目である。看護師として17年、看護管理者として2年の実務経験がある。 | | | |

| | | | |
|---|--|----------|-------------------|
| 領域 | 統合分野 | 単元名 | 医療安全演習・技術統合演習 |
| 科目 | 看護の統合と実践Ⅳ (医療者コミュニケーション・技術統合演習) | | |
| 対象学年・開講時期 | 3年・1学期 | 単位(時間数) | 1単位 (30時間のうち10時間) |
| 講師名 | 西園 里美 | 所属 | 専任教員 |
| <p>[講義概要]</p> <p>複数の患者を対象となるため、新たに、優先順位を考え判断することが必要になる。基本的な看護技術を患者の状態(発達段階、病態、治療方法、その場の状況)に応じて提供できるための考え方を学ぶ。</p> <p>1. 単元目標</p> <p>対象に起こりうる症状、状態の変化(成りゆき)を推測・判断し、看護医療介入の実際について理解する。</p> <p>2. 講義内容</p> | | | |
| 回 | 講義内容 | 講義形態 | |
| 1 | <p>1. 複数受け持ち患者の全体像の理解と関連図の作成</p> <p>[事例]心不全症状があり酸素療法中のA氏 低血糖症状があり糖尿病教育入院中のB氏の2名受け持ち</p> <p>2. 複数受け持ちでのマネジメントとその根拠</p> <p>1) 優先順位の決定</p> <p>2) 患者の個別条件に合わせた方法の選択</p> <p>3) 多重課題への対応</p> <p>4) 医療・看護介入における医療安全</p> <p>(1) 患者に行われている治療の指示確認 (2) 状態変化の予測と対応</p> <p>(3) 起こりうるリスクへの対応</p> <p>(4) 治療に関する機器や酸素チューブ、輸液ルート類の確認・管理</p> <p>5) 看護の質を保証するための医療者コミュニケーション</p> <p>(1) 看護チーム内での報告・連絡・相談 (2) 多職種(医師)との連携</p> <p>6) 患者の権利を尊重した倫理的配慮: 患者のニーズや思いに沿った対応</p> <p>*事前課題: 講義前に指示あり</p> <p>*グループで2名の関連図とマネジメント計画を立案し提出する。</p> | 講義演習 | |
| 2 | <p>1. 臨床におけるアセスメントの段階</p> <p>2. 臨床判断と臨床推論; タナーの「臨床判断モデル」、I-SBARC(アイエスバーク)</p> <p>3. 事例における把握した状態から複数患者に必要な看護</p> <p>病態生理、検査、処置、からの看護</p> <p>*事後課題: 2名の関連図作成とマネジメント計画の立案を個人で提出</p> <p>実践に必要な看護技術については、3回目演習までにグループ演習を行う。</p> | 講義演習 | |
| 3 | 1. 複数受け持ちでの看護実践(シミュレーション) | シミュレーション | |
| 4 | 2. 看護実践の評価・考察 | | |
| 4 | *事後課題: 講義後指示あり | | |
| 5 | 1. 看護実践の評価・考察 | 演習講義 | |
| 5 | 2. 自己課題の明確化 | | |
| 5 | *事後課題: 講義後指示あり | | |
| 講義の進め方 | <p>講義と演習(一部課題)</p> <p>この単元では、複数の患者が対象となるため、新たに優先順位を考え判断することが必要になる。その考え方を理解したうえで、基本的な看護技術を患者の状態(発達段階、病態、治療方法、その場の状況)に応じて提供できる実戦力を養う演習をグループ毎に行う。</p> <p>なお、複数受け持ちの看護実践については、ロールプレイングまたはシミュレーション方法を用いて学習する。</p> | | |
| テキスト | 看護管理(医学書院)必要なテキスト・文献を各自準備すること | | |
| 参考文献 | 適宜紹介する。 | | |
| 評価方法 | ①課題レポート、②講義に対する意欲・態度を総合的に評価する。 | | |
| 講師情報 | 専任教員13年目である。看護師として10年、看護管理者として4年の実務経験がある。 | | |

| | | | |
|---|--|---------|-----------------|
| 領域 | 統合分野 | 単元名 | 事例研究 |
| 科目 | 看護の統合と実践Ⅳ (医療者コミュニケーション・技術統合演習) | | |
| 対象学年・開講時期 | 3年・1学期 | 単位(時間数) | 1単位(30時間のうち6時間) |
| 講師名 | 大野 美穂 | 所属 | 教育主事 |
| <p>[講義概要]</p> <p>専門分野Ⅱの臨地実習で受け持った患者の事例を取り上げ、実施した看護について事例研究を行う。</p> <p>事例研究は、科学的根拠に基づいて自己の看護実践を検証すること、実践した看護を振り返り、自己の課題を明確にすることを目指す。</p> <p>1. 単元目標</p> <p>実習での事例の個別性に焦点をおき、その事例の問題を分析し、役立つ理論や方法をみつけ、実施した看護の効果を評価する。</p> | | | |
| 2. 講義内容 | | | |
| 回 | 講義内容 | | 講義形態 |
| 1～2 | <p>1.事例研究の進め方</p> <p>1)事例研究の意義、目的 2)事例研究の種類、事例研究のプロセス、事例研究のデータ収集・データ整理 3)事例研究における倫理 4)事例研究における研究計画書の構成要素 5)研究結果および考察の視点</p> <p>2.研究論文の作成</p> <p>1)論文の構成要素 2)論文作成上の注意点</p> | | 講義演習 |
| 3 | <p>3.発表資料の作りかた</p> <p>1)パワーポイント(スライド) 2)ポスター 3)発表原稿</p> | | 講義演習 |
| 講義の進め方 | <p>各専門領域の看護の特徴を理解し、受け持った事例に意図的な看護介入ができるよう研究計画書を立案し看護の実施、看護の効果について研究的視点で考察し論文を作成する。研究に取り組む際、1・2年次に履修した論理学、情報科学、看護研究の基礎で学習した内容を活用する(作成した論文は教科外活動<看護研究・学習発表会で発表し発表技術、批判的思考に基づく論評についても学習する)。</p> <p>講義時間以外にも学習時間を確保し、主体的・計画的に学んでください。</p> | | |
| テキスト | 黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版 | | |
| 参考文献 | <p>看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方(照林社)</p> <p>看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研)</p> <p>この他適宜紹介する</p> | | |
| 評価方法 | <p>研究計画書、事例研究論文、研究に対する取り組み態度</p> <p>(注意)事例研究を作成するまでのプロセス及び作成された論文により最終的な評価をする。期日までに提出されなかった論文は評価対象としないことがある。看護の統合と実践Ⅳの配点(割合)の詳細は、評価計画を参照のこと。</p> | | |
| 講師情報 | 学校管理者9年、看護管理者9年、専任教員7年、看護師10年の実務経験があり、現在教育主事として従事している。 | | |